

広島県労働者学習協議会 新・哲学講座がスタート！

弁証法とはなにか

ヘーゲル「小論理学」の真髓を学ぶ

昨年2月に開講した「高村・宮中塾」の第2弾は、ヘーゲル「小論理学」の真髓を、参加者との討議を深めながら学んでいきます。(詳細は「開講にあたっての挨拶」(裏面)をご参照ください)。Zoom ミーティングでの参加も可能です。多数のご参加をお待ちしています。

日 時： 2024年3月24日(日)

毎月第4日曜日に開講 10:00~12:00

(開催日が変更となる場合もあります)

場 所： 広島県労働者学習協議会

〒730-0853 広島県広島市中区堺町1丁目2-9

TEL.082-231-6107

受講料： 500 円/回

テキストはヘーゲル「小論理学」(岩波文庫)、「ヘーゲル『小論理学』を読む」(高村よしあつ著・一粒の麦社)の2冊を使用します。「ヘーゲル『小論理学』を読む」をお持ちでない方は、広島県労働者学習協議会でご購入も可能です。

お問合せ・申し込みは下記までお願いします
FAX.082-231-6140 Mail: rougaku1@urban.ne.jp

【開講にあたっての挨拶】

科学的社会主義の学説は、弁証法的唯物論を柱としています。科学的社会主義の創始者であるマルクス、エンゲルスがヘーゲル哲学を学んで弁証法的唯物論を生み出したことはよく知られていますが、マルクスもそれを著作にしようとしながら時間的余裕がなく、「自分があの偉大な思想家の弟子である」ことを公然と認めるにとどまりました。また、レーニンもヘーゲル「論理学」に学んで『哲学ノート』を作成するにとどまり、著作にまで前進することができませんでした。

こうして、科学的社会主義の弁証法的唯物論を学ぶには、ヘーゲルの「論理学」を学ぶ以外にないのです。マルクス、エンゲルスは、ヘーゲルを観念論者だとしていますが、高村は長年の取り組みの中で、ヘーゲルは観念論者ではなく、「観念論的装いをもった唯物論」と規定すべきとの結論に達しました。どちらが正しいのか、受講生の皆さんが『小論理学』をじっくり学んで結論を出されればいいのではないかと思います。

今回の「高村・宮中塾」は、高村の高齢化のため、最後のヘーゲル「論理学」講座となります。2024年3月から、毎月1回の全24回で、「小論理学」の有論、本質論、概念論を学んでいきます。しっかり討論の時間をとりながら、ズーム受講を含む全受講生のみなさんと「双方向・循環型」の講座にしていきたいと考えています。ヘーゲルをつうじて、改めて初心者もベテランも、共に弁証法とは何かを学んでいこうではありませんか。多数の皆さんのご参加を心からお待ち致しております。

高村是懿

講師紹介

高村是懿(たかむらよしあつ)・写真左

- ・広島県労働者学習協議会・元会長
- ・労学協で30年以上にわたって哲学講座を担当。
- ・「人間解放の哲学」(一粒の麦社)など著書多数。

宮中翔(みやなかめぐる)・写真右

- ・40歳、労働組合の専従
- ・広島県労働者学習協議会・常任理事
- ・科学的社会主義を独学で学んでいたが、ネット検索で労学協の存在を知り、「高村塾」(2011年開講)から参加

